

第98号

2020年3月

風

発行

群馬県生協連女性協議会

群馬県前橋市大手町3-19-3

『風』はホームページでもご覧いただけます

<https://gunma-ccu.jp/>

Eメール: post@gunma-ccu.jp

群馬県生協連、群馬県消団連、前橋市消団連共催

12月5日(木)

福島視察バスツアーに参加しました

2019年12月5日(木)『福島視察バスツアー』に運営委員と事務局5名が参加しました。現地では、福島第一原発から30キロメートル内に入ると、耕作されていない田畑が目立つようになります。

そして、大熊町の帰還困難区域を通過する国道6号線では、車内の線量計が視察日最高の2.71マイクロシーベルトと高い放射線量を記録しました。



避難指示が解除された地区は住民が増えているかのように錯覚しますが、約8万5千人ともいわれる避難者は福島に戻れず、実際は原発作業員が増えているだけで、元から住んでいた住民の帰還はまったく進んでいない現状でした。



東京電力廃炉資料館



富岡町の中学校体育館内

未だまだ放射能汚染水や除染土の処理など問題は山積しています。

東京電力廃炉資料館は、避難を余儀なくされた住民のことは一切ふれていません。現地案内人から事前に説明されていないと、うわべの反省に惑わ

されてしまう資料館の内容となっています。

夜ノ森地区では、廃校が決まった富岡町の中学校前で降車し、2011年3月11日の卒業式の状態がそのまま残されている体育館を建物の外から見学しました。ここもまもなく片付け作業が始まるとのことでした。

(県連女性協議会事務局)



J ヴィレッジ



震災当時のままの駐輪場

【福島視察バスツアーに参加して】

私の福島視察は2度目となります。今回のコーディネーターは福島県から群馬県に避難された丹治杉江さん。コースは一部避難指示解除になった大熊町を中心に回りました。以前と比べ崩れた家は撤去され、キレイな大きな建物があり、新しい道路も整備されていました。特に東京五輪の聖火リレーのスタート地点である130億円かけて造られたサッカー施設「Jヴィレッジ」はまさに復興のシンボルとされるような広大なものでした。

ふと、真後ろを振り返ると、中学生の自転車とヘルメットが8年前のままで駐輪場へずらりと並んでいました。「復興」の隣に「あの日」のままだがある風景がここにあります。なんとも言葉になりません。町に人の姿はなく、犬、猫、鳥もいないです。

現地案内人は二人の幼い娘さんのお父さんでもある、医療生協職員の工藤史雄さんです。時々、涙を堪えて説明する場面もありました。悔しいこと、怒り、不安、たくさんのことが伝わりました。福島の人が望んでいることは『あの、おだやかな元の暮らしを返して欲しい』ただ、それだけなのです。私にも何かできることがある筈と強く思いました。

県連女性協議会運営委員 上野和泉(パルシステム群馬)

初めて福島視察バスツアーに参加しました。始めにオリンピックの聖火スタート地点となり、130億かけて建設したJヴィレッジサッカー場を見学。敷地内には枯草が生い茂る施設や震災当時のままに取り残されている中学生の自転車があり、まさに光と影でした。

スタジアムは除染しているの線量は低いけれど、除染していない草むら等は線量が高いとの事で放射能の影響が心配です。

富岡、大熊、双葉とバスの中から見学しましたが復興されているのは見える部分だけの事でした。廃炉資料館も見学しましたが電力会社にとって裁判が不利になりそうな所は撮影禁止等、矛盾を感じました。

福島の方々の為に見てきたままだを伝えていくことが大切と感じた福島視察でした。



県連女性協議会運営委員 木村好美(生活クラブ生協群馬)

2月17日(月)

2019年度中央地連 男女共同参画学習会へ参加しました



2月17日(月)女性協議会より事務局を含め4名で中央地連主催の男女共同参画の学習会に参加しました。

今回は「男女共同参画の視点から考える防災」をテーマに国立女性教育会館の丹羽さんを講師に学習してきました。

あの日から早や9年が過ぎ、ご本人が支援に携わった3.11東日本大震災の様子をスライドで紹介しながらすすめる講義内容は、改めて当事の避難所での問題点が浮き彫りになり大変考えさせられるものでした。

特徴的だったのは避難所では特に、女性には男性と異なる影響が生じると言う事でした。

災害後の雇用問題、健康状況、避難所での生活面の不便さ、特にプライバシー、トイレ、そして女性だから必用不可欠な品物など切実な実態がある事もわかりました。災害に強い地域社会の必要性が叫ばれるなか、自治体等の運営に女性の参画率はまだまだ低く男女共同参画の視点からのマニュアル作成、政策方針決定は不可欠ではないでしょうか。

午後からは 防災に関するクロスロードゲームで盛り上がり、楽しく他生協の方と学ぶ事ができました。

毎年これだけの自然災害が多発する環境になり、災害が起こってから慌てふためいても遅いのです。地域の男性に任せておけばいいと言うのでは、何の問題解決にはなりません。災害に対して地域の中で自分ができることを考えてみたいと感じました。

皆さんも地域の繋がりの中で、少しずつでも男女共同参画を推進していただければと思います。

県連女性協議会会長 女屋美由紀(コープぐんま)

【2019年度男女共同参画学習会に参加して】

阪神淡路大震災や東日本大震災など、1000年に1度と言われる大規模の地震や、昨年の2回の大型台風の襲来による洪水や土砂崩れなどによって、今も多くの人が避難所生活を余儀なくされていますが、自治体が運営する男性中心の避難所では、女性はプライバシーを守れず暴力に怯えているということでした。

また老人や障がい者、子供などの社会的弱者は声をあげにくく、長期化するほど虐待やストレスなどから関連死が増えるそうです。

避難所の運営に女性がかかわり意見を取り入れる。育児や女性専用のスペースを作る。風呂やトイレは男女で別方向に設置する。更衣室や物干し場の確保。育児や女性などの世帯別エリアを設ける。女性警察官を派遣してもらう。食事作り片付け清掃などの役割分担は、男女を問わずできる人が行う。相談窓口を設置する。これらの対策によってずいぶん改善できたそうです。

丹羽氏は大震災直後に2年間福島に入り内閣府の拠点運営を担当、また復興庁政策調査官として男女共同参画を担当されていました。講演は実際にあったことを交えて話していただきましたので、説得力があり改めて女性の参画や提言が重要だということを感じました。

県連女性協議会副会長 藤原京子(利根保健生協)

2月12日(水)

国立女性教育会館NVEC（ヌエック） 視察学習に行ってきました

国立女性教育会館の視察と同会館事業課専門職員、丹羽様による「働き方×男女協同参画」～これからの時代の働き方を考える～の学習会に女性協議会メンバーで参加しました。



男女共同参画の形成を目指した国立女性教育センターは広い敷地に数々の施設があり、女性のキャリアアップの為の情報を国内外から得られるようになっていきます。国際会議の会場としても使われる事があるそうです。

学習会では、日本における女性の立場や現状をわかりやすいデータをもとに、お話ししていただき、日本の現状を学ぶことができました。男女共同参画社会の実現にむけ、今後は人材育成が出来る学びの場を増やしていき、次世代に繋げていける活動をして行かなければと思う学びの時間となりました。

県連女性協議会運営委員 新井安子(コープぐんま)

【国立女性教育会館 NVEC(ヌエック) 視察・学習会に参加】

施設内には女性教育に関する情報センターや資料室、会議室、レストランもあります。同じ敷地内には宿泊棟、研修棟、実技研修棟などあり、趣のあるお茶室もあります。施設内を案内して下さったボランティアスタッフの女性の方はここでのボランティアを20数年されているとのことでした。施設内の木々の葉を使った葉をプレゼントしていただきました。施設内を散策しながら万葉集に詠まれた植物の観察も行なっています。

組合員学習交流会でお世話になった丹羽麻子さんの「これからの時代の働き方を考える」(「固定的性別役割分担意識」×「長時間労働」)とした学習も行ないました。

県連女性協議会運営委員 吉田 寿美子(はるな生協)

【独立行政法人国立女性教育会館 視察・学習会に参加して】

2020年2月12日(水)国立女性教育会館において、運営委員会も兼ねて視察・学習会を行いました。1977年に男女共同参画社会の実現を目指して設置された会館では、館内でボランティアを20数年されている方の案内で、本館前のロータリーをスタートし、万葉集に詠まれた植物(31種類)など観察をしながら10ヘクタールの敷地をゆっくりと散策しました。敷地には東側に研修棟、西側に宿泊棟、中央に大きな池が配置されておりました。

男女共同参画社会の形成を目指した女性、家庭、家族に関する専門図書館や館内も見学をしました。又、2階のミーティングルームにおいて事業課専門職員による働き方×男女共同参画「これからの時代の働き方を考える」をテーマに講義をしていただき、日本の労働分野における男女平等は進んだか等、現在の男女共同参画について認識を新たにすることができ、とても充実した視察学習会となりました。

県連女性協議会運営委員 甫仮文子(群中医療生協)